

SMF
Press

SMF2012 まもなく本格始動

— どうきずき どうつなぐ 風のひろば —

2008年「ミュージアムからアートの風を!」の風車プロジェクトからスタートしたSMFの活動も今年で5年目となります。「SMFアートのわっ!」、「交差する風・織りなす場」、そして昨年から「Saitama Art Platform形成準備事業」と事業名称は変わっていますが、いずれも人間市博物館、うらわ美術館、川口市立アートギャラリー、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館という県内の公立ミュージアム5館がゆるやかに連携して実行委員会をつくり、文化庁のモデル事業・補助事業として実施してきました。

この事業には、各ミュージアム館内での展示、ワークショップやシンポジウムなどもあります。館庭や公園、街路や商店街、鋳物工場や銭湯といった、暮らしに身近な場所でのアートプログラムが多数含まれています。こうしたアートのアウトリーチ活動を、ミュージアムを起点に無理のないか

たちで展開していることが、この事業の特色のひとつに挙げられます。

また、美術作品の展示や造形ワークショップに限らず、館内に茶室ユニットを組んでそこでダンスや文学や音楽の複合セッションが展開されたり、伝統的なお囃子とモダンダンスがかけあいを演じたり、現代音楽のワークショップやライブがミュージアムで行われたりと、ジャンルの垣根を超えてさまざまなコラボレーションを醸成する場としての役割も果たしてきました。

この事業の多彩なアートプログラムの企画・運営を担っているのがSMF(Saitama Muse Forum)のメンバーです。埼玉県立近代美術館のミッションに共鳴し、美術、音楽、舞踊、建築、文学など、さまざまな分野で活動する方々が集い、「身近な場所でアートを享受し、支援し、再創造するプラットフォームをめざします」を旗印に、各ミュージアムのスタッフと

もにこの事業を支えてくださっています。ミュージアムをキーステーションとしながらミュージアムに限定されない活動や、さまざまなジャンルを超えた協働がSMFを母胎として生まれてきています。

各美術館が相互に連携を図るとともに、各館を拠点として地域のさまざまな文化資源を活用するアートプログラムを、地域との協働により実現していこう。そのような活動のなかで得られたつながりやソフトや情報を蓄積・共有し、継続的なアート活動の基盤となるプラットフォームを築いていこう。というのがこの事業の基本となる考え方です。

前述のように、これまでの事業を通じてたくさんの出会いと交流が生まれ、その周辺でさまざまな協働がはじまっています。今年度も「ひろがる」をテーマに各地で多彩なプログラムが計画されています。Saitama Art Platformは、SMFとして既に具体化されつつあるとも考えられますが、文化庁の支援がなくなるとこうした活動が継続できるよう、自立のための財源をいかに確保し持続的なプラットフォームの設計をめざすのか、今年の重要な課題となっています。

(M. N.)

「ひろがる」SMF2012 プログラム概要

- 5/19 行田アート散歩(行田市街、終了)
8/1~3 夜のアリット 光のフェスタ(人間市博物館 アリット)
8/11 身体表現で作品を鑑賞する MOMASの扉スペシャル(埼玉県立近代美術館)
8/25~26 ひとのかたち カラフル人形をつくろう(うらわ美術館、浦和市街)
9/9 におい色 パズル 多世代交流ワークショップvol.4(うらわ美術館)
10/7 ドローイング散歩(川口市・地藏院、興禅院)
10/8 ミュージアムロードを彩るアートフラッグをつくろう(川越市立美術館)
10/13 ミニ盆栽をつくろう(川口市・喜楽園)
10/20 鴻巣アート散歩(鴻巣市街)
10/20~1/20 みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10展示
10/21 アート作品にみる盆栽の魅力(川口市立アートギャラリー アトリア)
10/31~11/4 MOMAS開館30周年記念 関連イベント: SMFアートファクトリー、詩と美術(埼玉県立近代美術館)
9~10月に数回の準備ワークショップを開催予定
11/3 音で奏でる作品・音から生まれるかたち MOMASの扉スペシャル(埼玉県立近代美術館)
11/3~30 アートフラッグ to 旧川越織物市場(川越市街)
11/3~17 銭湯のあるまち歩き(川口市街)
11/11 コレオグラフィの目スペシャル(埼玉県立近代美術館)
11/24 アートクラフト・手づくり市 in 織物市場(旧川越織物市場)
11/24 まちアート発見ツアー(川越市街)
12/15 SMFラウンドテーブル2012(埼玉県立近代美術館)

- 9~1月予定 祭り de アート@KITAURAWA(北浦和西口銀座商店街、ほか)
9~1月予定 アート寺子屋「アートプラットフォーム形成のためのメタデザイン」全3回
12~1月予定 SMFアート寺子屋「アートプロジェクト入門」全2回

*タイトル、日程等が一部変更となる場合があります。各事業チラシやホームページ等で確認の上ご参加ください。

S A I T A M A
連携美術館情報

うらわ美術館

「ブラティスラヴァ世界絵本原画展—広がる絵本のかたち」
7/14~9/2

歴史ある世界最大規模の絵本原画コンクールとして知られる「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」。2011年のグランプリをはじめとする受賞作品や、日本からの出品作品を中心に展示します。

川口市立アートギャラリー・アトリア
「夏休みのアトリア 海のライン」

7/24~8/31

宮元 三恵(美術家)と、たむらひろし(ワークショップクリエイター)を迎え、海にまつわる水・光・風・熱・音などをテーマに、身体感覚を呼び覚ます空間を提案します。

川越市立美術館

「開館10周年・市制施行90周年記念特別展II タッチアート! 2 美術に触れるはじめての歩み」

8/11~9/30

いしばしめぐみ、瀬畑亮、西尾路子の3人のアーティストによる、子どもから大人まで楽しめる展覧会。作品の一部は直に手で触れてお楽しみください。

埼玉県立近代美術館

「ウルトラマン・アート! 時代と創造—ウルトラマン&ウルトラセブン」

7/7~9/2

今日まで続く巨大ヒーローの原点となったウルトラマンとウルトラセブン。デザイン原画や造形物、そのイメージから生まれたフィギュアなどを、美術的な視点から展示します。

今回は、埼玉県立近代美術館《みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10》をピックアップします。

開館30周年を迎えるMOMASでは、収蔵品への人気投票を実施中。1F吹き抜け回廊を投票所に、選ばれた上位10作品が、第3期の《MOMASコレクション》に登場します。

MOMASの顔といえはモノの「積みむら」だけど、木村直道のユーモラスな「スカルプチュア」、タレルの光の体験型作品も捨てがたい...! 因みに担当学芸員の渋谷さんは、遠藤利克の「泉」推しだそう。こちらもクールで存在感たっぷりですね。

8/31までの投票期間に、ぜひ愛情込めた一票を。もの言わぬ作品たちですが、展示室にてあなたに会える日を心待ちにしているはずです。みんなのお気に入りがあったところで、SMFとのコラボをどう実現するか、利用者と一緒につくる美術館の未来を想像しながら知恵を絞っているところです。

(A.O.)





行田にあるものとなないもの

誰かが、「行田には何もない」と言う。全員でベンチに腰掛けて、この〈行田アート散歩〉の感想を順番に述べ合うなかでのことである。気がつけばツアーも大詰めを迎え、水城公園に辿り着いていた。昼間はそれほど暑かったのに、夕陽が隠れて少々肌寒くなる。

平成24年5月19日、埼玉県行田市で〈行田アート散歩〉が開催された。とにかく行田を歩いていろいろ見てみようという趣旨のツアーである。20名ほどの参加者が集まり、JR行田駅から観光バスで出発し、目的地に着いた後はバスを降り

て徒歩で探索する。順路はさきたま古墳公園、足袋と暮らしの博物館、牧捨舎、保泉蔵、翠玉堂、新町自治会館、新町商店街、そして最後は水城公園にたどり着く。

市中心部の商店街は閑散とし、「シャッター通り」と化している。一方、その半径5キロ以内には巨大な総合スーパーが堂々たる佇まいを呈している。人々が集まる場所も、買うものもだいたい同じになっていくだろう。この国の至る所で見受けられることだが、行田もその例外ではないかもしれない。

しかしながら、「行田には何もない」という言葉に反論を試みなくてはならない。では、行田には何があったのだろうか。このツアーで印象深かったものを思い出そうとする。1. フライ、2. 蔵、3. さきたま古墳公園、4. ゼリーフライ、5. お寺と神社、6. 高校生の即興劇、7. ……フライが美味しかった。二種類のフライは味が違った。ソース味と醤油味。いくつかの蔵は内装や立地が、それぞれに異なることに気づいた。『足袋と暮らしの博物館』の職人さんが作る足袋は一つ一つ違うかもしれない。『牧捨舎』の藍染めの

模様も二度と同じものにはならないだろう。さきたま古墳群を取り囲む草木は毎日少しずつ成長しているかもしれない。それらは微妙な違いである。しかし、違いがある。フライのソース味と醤油味の違いは行田にしかないものであって、それはここでしか体感できないものだろう。そもそもそれらは、このツアーとは無関係に既に行田に「ある」のだ。

筆者は、このツアーの主催者の野本翔平さんと知り合いである。彼がパフォーマンスと称してやっていることはけっこう不可解で、去年の8月に前橋で行われたイベントでは、数人で自転車のベルを鳴らしながら歩きまわるパフォーマンスをしていた。彼の作品は、イベントとは無関係の「既存の何か」を利用することのように思える。そう思う〈行田アート散歩〉も、彼のパフォーマンス作品だったのではないかと考えてしまう。と言うと何か後味が悪い気がするので、こう付け加えておく。彼の活動は、行田で暮らす人々への愛に満ちている、と。(D.N)



▲清善寺



▲足袋と暮らしの博物館



ねこ道と呼ばれている路地▶

アートでつなぐ人とまち 浦和にパレードがやって来る!!

夏は各地で楽しいイベント盛りだくさん。“パレード”と聞いて、何をイメージしますか？賑やかな楽隊や踊り手たち、種々様々な仮装行列などが思い浮かぶことでしょう。来たる8月25日と26日、浦和のまちに出現するパレードはひと味違います。主役は年齢無制限のワークショップ参加者たち。うらわ美術館で「ひとのかたち」をテーマに作品をつくり、一人一体、布と糸でできた人形を連れて商店街を練り歩きます。

ワークショップの講師を務めるのは、埼玉県出身のアーティスト、秋元珠江さん。2006年にポーラ美術振興財団在外

研修員として1年間中国に滞在し、各地の農村をめぐる、民間工芸の作家と一緒に一枚の布から「ひとのかたち」をつくった経験が、活動のアイデアのもとになっているそうです。また美術館の担当職員である田島均さんは、参加者自身の分身ともいえる「人形」からコミュニケーションが生まれ、参加者同士やまちの人たちとも気持ちがつながっていくようなワークショップにしたいと意気込みを語っています。

さてこのアートなパレード、今年が第1回となるアートイベント《アートでつなぐ人とまち・アートフェスティバルうらわ2012》※

と同時開催です。2009年よりSMFのプログラムとして行ってきた《多世代交流ワークショップ》が新たな人脈を育み、さいたま市の市民活動サポートセンターからう

らわ美術館へ、フェスティバルへの協力依頼が寄せられたのが、今回の企画の発端でした。田島さんによれば「館内だけではつながれない人と一緒に活動できることが、SMFの事業に参加しての一番の収穫」とのこと。アートを通じて人から人へ、線路を跨いで西から東へ。浦和



▲パレードが通るなかつ通り

のまちに生まれつつあるいくつかのつながりが、この夏のような展開を見せるのか。とても楽しみです。(A.O.)

※浦和駅東口前のコナールに入居する、さいたま市の公共施設「浦和コミュニティセンター」「市民活動サポートセンター」「中央図書館」が連携して開催。

入間市博物館 アリスト Information

すっかり季節も夏らしくなり、日差しが眩しくなりました。毎日外を歩いていると、アイスのように溶けてしまいそうです。この暑い夏を乗り切るには、ヒヤッとしたものが恋しくなりますよね。そんな、ヒヤッしたい皆さんに朗報です!! この夏、入間市博物館がお化け屋敷に大変身! 普段は入ることのできない夜の博物館に皆様をご招待します。そう…博物館で肝試しです。博物館では可愛いオバケや恐いオバケ、面白いオバケと、いろんなオバケに

出会えます。もしかしたら、あなたもオバケの仲間入り…!?

8月1日から3日までの3日間、小・中学生を対象としたお化け屋敷ワークショップを開催します。入間のナイトミュージアムを楽しむためのヒントがワークショップにはたくさんあります。そして3日の17時から19時30分の間、もちろん、大人の皆さんもナイトミュージアムにご参加できるようになっています。童心に返って、オバケたちと過ごす一夜はいかがでしょう。(H.S.)

編集者のつぶやき…

行田のゼリーフライ美味しかった。鴻巣アート散歩も今から楽しみ。(M.N.)

埼玉って「都会/田舎」「新しい/古い」の中間なんじゃないでしょうか。(D.N.)

【S】30周年【M】MOMASに【F】フォーカスイン! 川越市美10周年も見逃せませんね。(A.O.)

学生最後の夏休みは夜の博物館を満喫します(^)(H.S.)